

🌀 全国遺跡報告総覧の国際発信

全国遺跡報告総覧は、海外からみると日本全国の発掘調査報告書を体系的に活用するための、唯一無二のデータベースといえます。この点から、より一層の国際発信をはかるために、2017年2月24日と27日に、英国のセインズベリー日本藝術研究所とヨーク大学考古学情報サービスにて、考古学情報の国際発信に関するセミナーを開催しました。セミナーは、全国遺跡報告総覧の紹介と発展の可能性を議論の軸にし、考古学情報の国際発信において先行している先方機関との相互の協力関係を探る観点で進めました。セインズベリー日本藝術研究所では、様々なデータベース作成や、普及事業への貢献、大学教育での活用等様々な連携事業を議論しました。また日本考古学を研究している学生の多くは、英語による検索に非常に大きな関心を示していました。普遍的な価値をもつ日本考古学の生データへの需要は非常に強いことを確認しました。

ヨーク大学考古学情報サービスは、英国の発掘調査の情報を集積し公開しています。またEU全体の考古学情報の連携にも大きな役割を果たしています。セミナーでは、考古学情報を国際的に共有し連携するための具体的な方法について本格的に議論しました。また全国遺跡報告総覧の年間ダウンロード件数が、運用からわずか1年半ですすでにEU全体の考古学情報統合システムの20倍以上に達し、世界的にみても突出した利用実績である点も大きな驚きを与えたようです。ヨーロッパを中心に、世界の考古学情報の連携が進んでいますが、全国遺跡報告総覧を今後、世界の考古学情報と連携させるよう大変に強く要望されました。全国遺跡報告総覧は、国内の行政、学界のみならず、世界の考古学界全体にとっても、不可欠な存在となり得ることを改めて認識しました。

(都城発掘調査部 国武 貞克)



ヨーク大学考古学情報サービス所長ジュリアン・リチャード教授(中央右)とともに